＜先週の説教から＞

『詩編㉚―私を引き上げて下さる神様』

武田真治　牧師

詩 編 ３０：１～１３　ヨハネ福音書 １１：１～27

毎月末は『詩編』を一つひとつ読み進めております。その際、その内容と共に、後にその詩編がどのように読まれて行ったか、その受容史も紹介させて頂いています。この詩編30編は、この後、ユダヤ教とキリスト教では大きくその受容の仕方が変った詩編でもあります。ユダヤ教では、この詩編の表題に「神殿奉献の歌」とあることから、毎年、冬に行われる神殿奉献記念祭（＝ハヌカーと呼ばれるお祭り。ここの「奉献」という言葉が原文でハヌカーです）にて読まれる詩編となって行きました。一方のキリスト教では、この詩の中に「主よ、あなたはわたしの魂を陰府から引き上げ、命を得させてくださいました」や「わたしが死んで墓に下ることに何の益があるでしょう」等の言葉からイエス様の“復活”との関連で読まれるようになりました。例えば、ヒエロニムス（＝旧約聖書のラテン語訳を初めて完成させた）が『この詩編はダビデに関する詩編ではなく、キリストの苦しみと復活と完成に関する預言である』と述べていますように。

このように私たちとしては、旧約聖書にある“復活を指し示す”箇所として十分に引用できる箇所ですが、ただ厳密に申しますと、この詩編を祈っている信仰者は死んでしまったのではありません。命を落とす寸前まで窮した状態から救い出してもらったことを主に感謝している詩編です。それが「叫び求めるわたしを癒してくださいました」や「墓穴に下ることを免れさせ」であり、その結果「わたしに命を得させてくださいました」と感謝の祈りを献げているのです。

その上で、私はこの詩（＝祈り）のすごさは7～9節にあると思います。この詩人は「平穏なときには、申しました。『わたしはとこしえに揺らぐことがない』と」思っていたと自ら述べています。まさに、自分の状態がとても良い＝順調な時には『もう自分は大丈夫だ、このままずっと幸せに暮らせるにちがいない』と思っていたのだと。ところが「しかし、御顔を隠されると（＝神様が少し目を離されたら）、わたしはたちまち恐怖に陥りました」と。わずかな問題が起っただけで、すぐに落ち込み、不安に陥ってしまったと。そこで気が付いたことは「主よ、あなたが御旨によって、（わたしを）砦の山に立たせて」くださっていたから平穏な状態だったのだ、決して自分の力や努力だけではない、主の御守りがあってこそだと思い知ったのでした。それ故「主よ、わたしはあなたを呼びます」「わたしが死んで墓に下ることに何の益があるでしょう」と心の底から嘆願する者へと変えられたのでした。その結果、自分を支え、立ち直ることができ、先ほどの「わたしに命を得させてくださいました」と感謝の祈りを献げられたと。私たちにも思い当たることがありますね。

この詩編の最後は「あなたはわたしの嘆きを踊りに変え、わたしの魂があなたをほめ歌い、沈黙することのないようにしてくださいました」です。素晴らしい信仰告白です！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．３月８日（水）20：00
　　Ⅱ．３月９日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　他住会員を覚えて
担 当 者：　（水）金剌　（木）中村
祈りに覚える人：　浦野さん　大竹さん

【教勢報告】

主日礼拝　男 19　女 59　計 78
祈祷会 Ⅰ．男6 女2 計8　Ⅱ．男1 女9 計10
日曜学校　幼稚科 6　小中科 11　計 17
ひつじ雲の会〈2月28日(火)〉　男 0　女 6　計 6

【次週主日礼拝】　３月　１２日（日）

聖　書：　箴　言　４：２０～２７
　　ヘブライ人への手紙　１２：４～１３
説　教：　「ヘブライ㊺―神様の子どもとして」
　　武田 真治 牧師
讃美歌：　２９８(1)、３２(1)、２９４(1と2)、
　　４５６(1～3)、９１(1)

【次週当番表】

司式:齋藤長老　奏楽:羽倉　礼拝:金剌長老
献金：大野　岡田　受付：西尾　橘本
会堂準備：飯島　岡本　金剌　中村
看板：岩佐　週報：金剌　お花：茨木

【次週集会予定】　礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
　　礼拝後：・婦人会・ダビデ会・聖歌隊練習

６４－１０

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　３月　５日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/